

9月24日～30日は 結核予防週間

照会先 関市保健センター

☎240111

こんな症状ありませんか？

- ・せきやたんが長く
・体がだるい
・食欲が出ない、急に体重が減った
・何となく熱っぽい
・・・・なぜかなあ？
1カ月たっても症状が治らないけど？

その症状、もしかしたら結核かもしれません。結核は今も日本で感染が起こっています。

あなたは大丈夫ですか。

結核は「現代」の病気です

現在、結核を発症する人は日本で年間約2万5千人います。この日本の状態から、新しい結核患者がほとんどいなくなるレベルにするまでには、約50年もかかると言われています。

また、高齢者の中には、今よりも結核が蔓延していた時代に感染して、結核菌を体内に持っている人がいます。若い時は体力も抵抗力もあり発症しなかったものが、加齢や病気による免疫力の低下とともに発症することがあります。そして、若年層の中には結核に対する免疫が弱い人がいます。このよ
うな人が感染し、発症します。

感染経路は？

「結核菌」は、せきやくしゃみで飛び散ります。免疫力の弱い人がそれを吸うと感染します。

「結核」を早期発見しましょう

「せき」「たん」「胸痛」「全身のだるさ」「微熱」「体重減少」これらの症状が2週間以上続くようであれば、必ず医療機関に受診して、胸部レントゲン検査やたんの検査をしましょう。
自分が感染しているだけ……では済まず、周りの人にも感染させてしまいます。

「結核」は治ります

結核は、薬の確実な服用で治ります。早めにしつかりと治療を受けましょう。

「結核」を予防しましょう

現在かかっている病気の治療をきちんと行い、悪化させないようにしましょう。

健康な体づくりのために、十分な睡眠、バランスのとれた食事、適度な運動を心がけましょう。

年1回は定期的に健康診断（胸部レントゲン撮影）を受けましょう。

※65歳以上の方は、市の検診受診券を使って、年1回無料で結核検診を受けられることができます。

※乳幼児の場合は、結核にかかると重症になりやすいです。乳幼児の結核を予防するためにはBCG接種が有効です。生後3～6カ月以内に予防接種を受けましょう。

9月21日(火)～9月30日(木)

秋

の全国交通安全運動

スローガン 地域ぐるみで守ろう お年寄りと子ども

運動の基本 高齢者の交通事故防止

運動の重点

- 飲酒運転の根絶
- 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 子どもの交通事故は、下校時から夕方までの時間帯に多発する傾向があります。また、小さい子どもほど自宅の近くで事故が発生していますので、歩道から急に飛び出さないことや、交差点での左右の安全確認の大切さをご家庭で話しましょう。
- 高齢者の交通事故死亡者数の全年齢層に占める割合は年々増加しています。また、他の年齢層に比べて、道路横断時（横断歩道以外の横断、走行車両の直前や直後の横断など）の事故の割合が高いため、無理な横断はしないでください。夜間出歩くときは明るい服装と反射材を活用し、目立つようにしましょう。
- シートベルトを着用していなかった人の致死率は、着用していた人に比べると運転者は約47倍、助手席同乗者は約11倍、後部座席同乗者は約3倍、チャイルドシート不使用の致死率は使用の場合の約6.6倍と高く、着用率の向上が事故被害を少なくします（警察庁交通局平成20年発表）。
- 自転車の無灯火や2人乗り、乗用中の視野を妨げて安定を失う携帯電話の使用、傘差し、ヘッドホンの使用などはやめましょう。

9月30日(木) 交通事故死ゼロを目指す日

照会先 危機管理課 ☎23-7736